

【I 南島原市-口之津エリア Minamishimabara City-Kuchinotsu Area】



早崎半島の烽火山(のろしやま)から

南島原市-口之津エリアでは、“[南西面の雲仙岳](#)”が眺望できます。中学校の校歌には雲仙岳が登場し、地域で古くから親しまれてきたことが分かります。山並みとしては、至近距離にある雲仙岳より古い火山群(鳳上岳や愛宕山、富士山など)の奥に、高岩山と妙見岳・普賢岳・平成新山が重なり合っているのが特徴です(↑)。

当エリアは、古代以来、西九州の交通上の要所でした。中国大陸から船で日本へ向かうと、まず西九州の沿岸部に至りますが、そこから九州各地に行くには船で有明海／八代海を通過して奥に入っていくのが効率的で、その有明海・八代海の入口に当たるのが島原半島と天草諸島にはさまれた早崎海峡であり、その脇の港が口之津港でした。約 50 万年前に海底火山から火山島となった雲仙岳が、噴火活動を繰り返して約 40 万年前に諫早とつながって半島を形成したことが、口之津を交通上の要所に仕立てたと言えます。古代の中国では、日本へ船で渡って早崎海峡を目指すと初めに見える高い山が雲仙岳ということで、“日本山”と呼ばれていたと言います。

中世の時代、中国を経由して来航する南蛮船も口之津港を重要視し、1563 年にはイエズス会のルイス・アルメイダが口之津に入ってきてキリスト教の布教を開始し、口之津は九州管内区のキリスト教布教の拠点となりました。島原領主の有馬晴信はキリシタン大名となって布教を推進すると共に、口之津港を開港して南蛮貿易を行いました。その後、江戸時代初期の“島原・天草一揆”の際には、当時の口之津村の村民ほぼ全員が一揆に参加したとされています。

当エリアのこのような歴史を感じられる歩道として、昭和 55 年には九州自然歩道(九州を一周する歩道)が開通し、口之津港から雲仙岳までゆっくり登山が楽しめます。また、平成 27 年には九州オルレ“南島原コース”が開通し、早崎半島を一周しながら烽火山では雲仙岳も眺望できます。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、口之津エリアを旅してみませんか？

●口之津エリアの観光情報はこちら ⇒ 南島原ひまわり観光協会 <http://himawari-kankou.jp/>



口之津港沖のフェリー船上から(南西から)



南蛮貿易・布教の拠点であった口之津港



日本三大潮流の早崎海峡